千葉大学教育学部研究紀要　第56巻　287～292頁（2008）

副詞マシテの用法と意味

安　部　朋　世

千葉大学教育学部

A Semantic Analysis of ‘*Mashite*’

ABE, Tomoyo

Faculty of Education, Chiba University, Japan

本稿は，副詞に分類される現代語のマシテを分析の対象とし，その用法を整理し特徴を分析することで，マシテの意味について記述するものである。「ＡマシテＢ」において，マシテは，ＡとＢを共通項Ｃとの関係において想定していることを表す。具体的には，①マシテの前項の内容Ａと，マシテの後項の内容Ｂ，そして，双方に共通する内容である共通項Ｃの３項は，それぞれ文脈から想定されること，②ＡとＢとの関係は，〈ＡよりもＢの方が共通項Ｃという条件を満たし易い〉ものとして想定されること，の２点を指摘することができる。併せて，本稿で指摘したマシテの意味特徴と，とりたて助詞「(デ）サエ」との共通点と相違点について指摘を行った。

キーワード：マシテ（*mashite*）　とりたて詞（focus particle）　副詞（adverb）　サエ（*sae*）

１．はじめに

本稿は，副詞に分類される現代語のマシテ[1]の用法を整理し特徴を分析することで，マシテの意味を記述することを目的とする。

本稿で取り上げるマシテの用例は，⑴⑵のような，副詞マシテ・マシテヤの用例である。両形を一括してマシテとして考察を進める。

⑴　山の中の小さい町のこととて，地方版に載るような記事も一週間に二つか三つで，マシテ全国版に載るような記事は何カ月に一つあるかないかの状態だ[2]。
（あすなろ）

⑵　京ではやっている今様らしい。歌詞の意味は，叶わぬ恋の恨みをうたっている。花篭には当然ながら水は入れられないし，マシテヤ月影をやどせるわけのものではない。しかしそれでもなお，仇し男は篭に水を満たそうとし，月影を宿そうとしている。　（国盗り）

一方，マシテには，⑶⑷のような用例もみられる。

⑶　越前敦賀の平野に襲来した織田の大軍をみて，越前朝倉衆は，
「天兵が舞いおりたか」
と，仰天した。信長の突然の侵入におどろいたこともあるが，織田軍の軍装のまばゆいばかりの美しさに，
――天兵か。
とおどろいたのである。（中略）武具の華麗さに，越前兵が驚嘆したのもむりはない。しかも主将の信長は，たれにもマシテ好みの派手やかな男である。（国盗り）

⑷　犬や猫の死んだ話も洗いざらい喋ってしまって，胸の中も晴上ったかもしれないのに，と加恵は育ての親ともいうべき乳母の死が今では何にもマシテ悲しかった。　（華岡）

これらの，「たれにもマシテ」や「何にもマシテ」のような連語的用法については，本稿では取り上げないこととする[3]。

本稿の構成は以下の通りである。２．で先行研究を取り上げその問題点を指摘する。３．でマシテの用法を整理し，二つの角度から分析を進め，マシテの意味について明らかにする。４．では，とりたて表現の観点からマシテとサエの共通点と相違点について指摘をし，今後の課題について述べる。

２．先行研究と問題の所在

マシテについての先行研究では，「ＡマシテＢ」のマシテが，概ね「Ａとの関係においてＢを取り上げるものである」と捉えている点が共通している。以下に，主な研究として，市川1976，工藤1977・2000，森田1989・2002を挙げる。

［１］市川1976

ａ）マシテは「わたし」を「特定の対象として取り上げることによって，以下の叙述を導き出して」おり，「「あなた」と比較してもっと著しい「わたし」の場合を取り上げる立場」を示す（市川1976：238）。

⑸　あなたに出来ない問題が，マシテわたしに解けるはずがない。　（市川1976：238）

［２］工藤1977・2000

ａ）「類推」を表し，「顕著に異なった二つの場合を比較して，〈他方の場合サエそうだから，以下の場合ナドハいうまでもなく〉という関係で，とりたてる」もの。「「なんぞ・なぞ・なんか」のような副助詞と共存する点に端的にあらわれているように，対象に対する軽重の価値評価性がまとわりついて」いる。
（工藤1977：978）

ｂ）「類推的に〈価値の軽重〉を問う」もの。
（工藤2000：230）

⑹　告白―それは同じ新平民の先輩にすら躊躇したことで，マシテ社会の人に自分の素性をさらけださうなどとは，今日迄思ひもよらなかつた思想なのである。

連絡先著者：安倍朋世

（工藤1977(41)）

(7)　書いたものを愛読してさへ，既に怪しいと思はれて居るではないか。マシテ，うつかり尋ねて行つたりなんかして―もしや―　（工藤1977(42)）

［３］森田1989・2002

ａ）「ある一般的な状況の上に，さらにより厳しい状況が加算されることにより，状態が当然そうなることを強調」するもの。「その上…だから，当然」の意味となる（森田1989：1058）。

(8)　みんな規則を守っている。マシテ，君はクラス委員だ。校則を守るのは当然じゃないか。

（森田1989：1059）

(9)　ただでさえ生活が苦しいというのに，マシテ最近のこの物価高，どうやって生きていったらいいのだ。

（森田1989：1059）

ｂ）「ある状況において，著しいほうの例をあげて“それですらある状態となるのだから，他方の場合は言うまでもない”と，軽いほうの例が当然そうなることを強調する」もの。ａ）の二つの状況が「対照的な状況」として「対比の形」で並んだものであり，「Ａでさえ…だから，Ｂはもちろん…」という慣用的な言い回しである（森田1989：1059）。

(10)　先生でさえわからないのに，マシテ生徒のぼくにできるはずはない。　（森田1989：1059）

(11)　子供でさえやれるのに，マシテ大人のお前にできないことがあるものか。　（森田1989：1059）

ｃ）「他との対比において，その一方を取り立てる意識」を表すもの。「ＡはＣだから，まして，ＢはＣだ」等の文型（森田2002：112）。

(12)　先生でさえわからないのに，マシテ生徒にできるはずはない。　（森田2002：112）

これらは，「「あなた」と比較してもっと著しい「わたし」の場合を取り上げる立場」（市川1976：238），「顕著に異なった二つの場合を比較」（工藤1977：978），「他との対比において，その一方を取り立てる」（森田2002：112）のように，いずれも，マシテの前に述べられるＡと，マシテの後に述べられるＢとの関係から，マシテの意味を説明する。

しかし，それらの関係がどのような関係にあるのか，という点については，必ずしも明確に説明されているわけではない。例えば，工藤1977・2000，森田1989では，「著しい」ほうのＡと「軽い」ほうのＢ，といった「軽重」の関係で説明されるが，一方，森田1989では，「ある一般的な状況の上に，さらにより厳しい状況が加算」のように，「一般的」なＡと「より厳しい」Ｂ，という関係でも説明されており，ＡとＢのどちらが「重」くどちらが「軽」いのか，そもそも「軽重」とはどのようなことを指すのかについて，明確な説明がなされているとはいえない。

本稿では，マシテの用例を整理しその特徴を分析することで，マシテの意味・機能について明らかにすることを目的とする。

３．マシテの用法の特徴とマシテの意味

3.1　「ＡマシテＢ」のＡ・Ｂと共通項Ｃ

森田2002では，「表現すべき内容に対して“己”の心的態度を表し，叙述の在り方を事前に規定して，述語形式を誘導する語彙」である「陳述副詞」の下位分類「限定副詞」の中に，「ＡはＣだから，マシテ，ＢはＣだ」等の文型で現れるものとしてマシテを挙げる。

確かに，森田2002で挙げられる例文

(13)　先生でさえわからないのに，マシテ生徒にできるはずはない。　（(12)を再掲；森田2002：112）

は，

(14)　［先生ハ］［ワカラナイ］マシテ
　　Ａ　　Ｃ
　［生徒ニハ］［デキナイ］
　　Ｂ　　Ｃ

という文型である。また，以下の例，

(15)　私は田舎の客が嫌だった。飲んだり食ったりするのを，最後の目的として遣って来る彼等は，何か事があれば好いといった風の人ばかり揃っていた。私は子供の時から彼等の席に侍するのを心苦しく感じていた。マシテ自分のために彼等が来るとなると，私の苦痛は一層甚しいように想像された。　（こころ）

についても，

(16)　［田舎ノ客ノ席に侍スルノハ］［心苦シイ］マシテ
　　Ａ　　Ｃ
　［自分ノタメに田舎ノ客ガ来ルノハ］［苦痛ダ］
　　Ｂ　　Ｃ

の形になっていると捉えられるし，

(17)　内供はこう云う人々の顔を根気よく物色した。一人でも自分のような鼻のある人間を見つけて，安心がしたかったからである。だから内供の眼には，紺の水干も白の帷子もはいらない。マシテ柑子色の帽子や，椎鈍の法衣なぞは，見慣れているだけに，有れども無きが如くである。内供は人を見ずに，唯，鼻を見た。

（鼻）

の例文も同様に，

(18)　［紺ノ水干ヤ白ノ帷子ハ］［眼に入ラナイ］マシテ
　　Ａ　　Ｃ
　［柑子色ノ帽子ヤ椎鈍ノ法衣ハ］［無イト同ジダ］
　　Ｂ　　Ｃ

の形になっていると考えられる。

また，「ＡはＣだから，マシテ，ＢはＣだ」文型に類した形式として，

(19)　基一郎は朗らかな声で言う。

「三瓶，今日はひとつ，レストランというところで西洋料理を御馳走しよう」

そうして二人は外出してゆくのだが，強羅の駅前にある小さなレストランにも，マシテ宮ノ下の富士屋ホテルの食堂にも行きはしなかった。二人は強羅公園前の鄙びた茶店に入り，それぞれかき氷を飲みながら，深遠な政治の問題，いかにして城吉の知人を当選させるかという密議にふけるのであった。　（楡家）

(20)　とにかくあの女には根負けがする。たとい逢うと云わないまでも，おれと一度話さえすれば，きっと手に

入れて見せるのだがな。マシテ一晩逢いでもすれば，——あの摂津でも小中将でも，まだおれを知らない内は，男嫌いで通していたものだ。それがおれの手にかかると，あの通り好きものになるじゃないか？

（好色）

の用例のように，

(21) ［強羅ノ駅前ノ小サナレストランニ］
A
（［行カナカッタ］）マシテ
(C)
［宮ノ下ノ富士屋ホテルノ食堂ニ］
B
［行カナカッタ］
C

(22) ［オレト一度話サエスレバ］
A
［手ニ入レテ見セル］マシテ
C
［一晩逢イデモスレバ］
B
（［手ニ入レテ見セル］）
(C)

の形，すなわち「A，マシテB　Cダ」「A　C，マシテB」のような，共通項Cの一方を省略した形を取る例も挙げられる。

しかし，全ての用例が「AはCだから，マシテ，BはCだ」文型あるいはそれに類した形式として解釈できるわけではない。例えば，

(23) 左馬の頭がいうあいだ，源氏は心の中で，ただひとりの女を想いつづけている。あのお方こそは，足らぬ点もなく，マシテ才気をひけらかすということなど，露ほどもなさらない。たおやかでいらして，お心ばえが素直で……やさしくて，それでいてきりッとした気高いところがおありで……と，それからそれへと考えつづけると，源氏は胸が苦しみでふさがるのであった。

（新源氏）

(24) 玉枝は秘密にしていたのだが，じつは七月から月のものがなかった。もっとも，娼妓をしていた躯である。月のものの不順にはなれている。若いころに半年も滞ったことがあったりした体質だ。だから，無くても心配はしない。マシテヤ，崎山忠平と一どきりの過失を犯しただけである。妊娠していようなどとどうして考えられよう。

（越前）

の用例では，「AはCだから，まして，BはCだ」といった文型にあてはめて解釈することは困難である。

では，これらはどのように捉えられるのであろうか。

これらの例は，A・B・Cに相当する内容が文中に明示されているのではなく，文脈から想定されるものである。(23)であれば，例えば

(25) ［足ラナイ点ガナイコトハ］
A
［アノ方ノ素晴ラシサダ］マシテ
C
［才気ヲヒケラカサナイコトハ］
B
［アノ方ノ素晴ラシサダ］
C

のように，AとBに共通するCが文脈から想定されると解釈することが可能である。(24)についても，Aが文中に明示されておらず，

(26) ［娼妓ヲシテイテ月ノモノガ不順ダッタガ問題ナカッタコトハ］
A
［月ノモノガナクテモ心配ナイ根拠ダ］マシテ
C
［崎山忠平トノ過失ガ一度キリデアルコトハ］
B
［月ノモノガナクテモ心配ナイ根拠ダ］
C

のように，文脈から想定することができる[4]。

以上のことから，マシテの用法の特徴として，次のことが挙げられる。

(27) 「AマシテB」では，マシテの前項の内容Aと，マシテの後項の内容B，そして，双方に共通する内容である共通項Cの3項が，それぞれ文脈から想定される。

3. 2　AとBとの関係

先行研究では，いずれも「AマシテB」において，AとBとの関係性においてマシテの意味が説明されていたが，その関係性が曖昧である点が問題であった。では，AとBとの関係性はどのように捉えられるのであろうか。

結論を先に述べると，AとBとの関係は，共通項Cとの関係において捉えることが可能である。

例えば，

(28) 内供はこう云う人々の顔を根気よく物色した。一人でも自分のような鼻のある人間を見つけて，安心がしたかったからである。だから内供の眼には，紺の水干も白の帷子もはいらない。マシテ柑子色の帽子や，椎鈍の法衣なぞは，見慣れているだけに，有れども無きが如くである。内供は人を見ずに，唯，鼻を見た。

((17)の再掲；鼻)

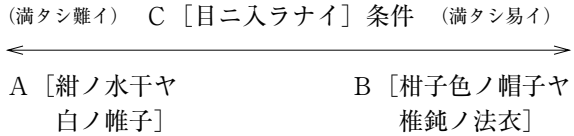
の用例は，

(29) ［紺ノ水干ヤ白ノ帷子ハ］［眼ニ入ラナイ］マシテ
A　C
［柑子色ノ帽子ヤ椎鈍ノ法衣ハ］［無イト同ジダ］
B　C

((18)の再掲)

のように捉えられるが，このAとBはともに，共通項C「目ニ入ラナイ」ものとして捉えられており，その度合いは，Bについて「見慣れている」とあるように，AよりもBの方が「ヨリ“目ニ入ラナイ”モノ」として，つまり，共通項C「目ニ入ラナイ」を満たすものとして相対的に「満たし易いもの」と位置付けられている。それを図示すると次のようになる。

(30) （満タシ難イ）　C［目ニ入ラナイ］条件　（満タシ易イ）



次の例も同様である。

(31) 左馬の頭がいうあいだ，源氏は心の中で，ただひと

りの女を想いつづけている。あのお方こそは，足らぬ点もなく，マシテ才気をひけらかすということなど，露ほどもなさらない。たおやかでいらして，お心ばえが素直で……やさしくて，それでいてきりッとした気高いところがおありで……と，それからそれへと考えつづけると，源氏は胸が苦しみでふさがるのであった。

（㉓の再掲；新源氏）

の用例は，

㉜　［足ラナイ点ガナイコトハ］
　　A
　［アノ方ノ素晴ラシサダ］マシテ
　　C
　［才気ヲヒケラカサナイコトハ］
　　B
　［アノ方ノ素晴ラシサダ］
　　C　　（㉕の再掲）

のように捉えられるが，これは，共通項C「アノ方ノ素晴ラシサ」を満たす条件として，全ての条件を確認した上で述べられるようなA「足ラナイ点ガナイ」という条件よりも，B「才気ヲヒケラカサナイ」という一つの条件の方が，容易に条件を満たすことができる関係にある。図示すると次のようになる。

㉝　（満タシ難イ）　C［素晴ラシサ］条件　（満タシ易イ）

←――――――――――――――――――――――――→

A［足ラナイ点ナシ］　B［才気ヲヒケラカサナイ］

このように，〈AよりもBの方が共通項Cという条件を満たし易い〉という関係にあることは，次の例からも確認できる。

㉞　日本記録保持者の選手ならば優勝する。マシテ，世界記録保持者の選手であれば，優勝は間違いない。

㉟??世界記録保持者の選手ならば優勝する。マシテ，日本記録保持者の選手であれば，優勝は間違いない。

「世界記録保持者の選手」と「日本記録保持者の選手」とを比較すると，前者の方が「優勝し易い」と考えられるが，「AマシテB」の文において，優勝し易い「世界記録保持者の選手」をBにすると自然な文に解釈されるのに対し（例文㉞），Aにすると許容度が下がるように感じられる（例文㉟）。

また，次の例からも，マシテが〈AよりもBの方が共通項Cという条件を満たし易い〉ことを表していることが確認できる。

㊱　私がナオミに叱言らしい叱言を云ったのはその時が始めてでした。私は彼女がハリソン嬢を味方にして，「それ見たことか」と云うように，得意の鼻を蠢めかしているのが癪に触ったばかりでなく，第一こんなで「偉い女」になれるかどうか，それを非常に心もとなく感じたのです。英語と云うものを別問題にして考えても，文典の規則を理解することが出来ないような頭では，全くこの先が案じられる。男の児が中学で幾何や代数を習うのは何の為めか，必ずしも実用に供するのが主眼でなく，頭脳の働きを緻密にし，練磨するのが目的ではないか。女の児だって，成るほど今までは解剖的の頭がなくても済んでいた。が，これからの婦人はそうは行かない。マシテ「西洋人にも劣らないような」「立派な」女になろうとするものが，組織の才がなく，分析の能力がないと云うのでは心細い。

（痴人）

㊲　（…略…）これからの婦人はそうは行かない。φ「西洋人にも劣らないような」「立派な」女になろうとするものが，組織の才がなく，分析の能力がないと云うのでは心細い。

マシテを含む㊱の用例は，

㊳　［コレカラノ婦人ハ］
　　A
　［組織ノ才ヤ分析能力ガ必要ダ］マシテ
　　C
　［西洋人ニモ劣ラナイヨウナ立派ナ女ハ］
　　B
　［組織ノ才ヤ分析能力ガ必要ダ］
　　C

と解釈でき，A「コレカラノ婦人」よりもB「西洋人ニモ劣ラナイヨウナ立派ナ女」の方が，共通項C「組織ノ才ヤ分析能力ガ必要ダ」にあてはまる存在，つまり，より「組織ノ才ヤ分析能力」を必要とする存在として位置付けられている。つまり，AとBとでは，共通項Cとの関係性の度合いに差が見られるのである。しかし，マシテを省いた㊲では，

㊴　A［コレカラノ婦人］
　　‖（イコール）
　　B［西洋人ニモ劣ラナイヨウナ立派ナ女］

のように，AとBとが同等に位置付けられるものとして解釈されてしまう。このことからも，マシテが〈AよりもBの方が共通項Cという条件を満たし易い〉ことを表していることが確認できる。

先行研究では，「ある一般的な状況の上に，さらにより厳しい状況が加算されることにより，状態が当然そうなることを強調」（森田1989：1058）する例として，

㊵　みんな規則を守っている。マシテ，君はクラス委員だ。校則を守るのは当然じゃないか。

（⑧の再掲；森田1989：1059）

㊶　ただでさえ生活が苦しいというのに，マシテ最近のこの物価高，どうやって生きていったらいいのだ。

（⑨の再掲；森田1989：1059）

が挙げられていた。これらは，Aが「一般的な状況」で，Bが「それより厳しい状況」というように，これまで確認してきた例とは関係が逆のように思われる例であるが，A・B・Cの関係を考えれば，次のように，これまで確認してきた例と同様に解釈できることがわかる。まず，㊵については，

㊷　［ミンナハ］［校則ヲ守ル］マシテ
　　A　　C
　［学級委員ノ君ハ］［校則ヲ守ル］
　　B　　C

のように捉えることができるが，このときのA「ミンナ」とB「学級委員ノ君」を比較すると，学級委員という立場の方が，より模範的であると考えられる。すなわち，Bの方が共通項C「校則ヲ守ル」条件を満たし易い存在として解釈できる。㊶も同様に，

㊸　［普通ノ状態デ］［生活ガ苦シイ］マシテ
　　A　　C

［物価高デ］［生活ガ苦シイ］
　　B　　C

という関係における「普通ノ状態」と「物価高」を比較すると，プラスの要素もマイナスの要素もない「普通ノ状態」より，「物価高」という条件のある方が生活が，苦しくなる可能性が高くなると考えられる。すなわち，Bの方が共通項Cの条件を満たし易い存在として解釈できるのである。

(40)(41)は，いずれも，Aである「ミンナ」「普通ノ状態」がCを満たし得るような条件のない一般的な状況であるのに対し，Bである「学級委員」「物価高」の方はCを満たす何らかの条件が存在する状況である。「何もない普通の状況A」と「何らかの条件がある状況B」を比較すると「AよりもBの方が厳しい状況」ということになるが，共通項Cを踏まえての関係を考えると，〈Cを満たし得るような条件がないAよりも，何らかの条件があるBの方が，共通項Cという条件を満たし易い〉を備えているということができる。

以上のことから，次の点が指摘できる。

(44)　AとBとの関係は，〈AよりもBの方が共通項Cという条件を満たし易い〉ものとして想定される。

3.3　3．のまとめ―マシテの意味

これまでの分析をまとめると，次のようになる。

(45)　マシテの意味

「AマシテB」において，マシテは，AとBを共通項Cとの関係において想定していることを表す。具体的には，

①　マシテの前項の内容Aと，マシテの後項の内容B，そして，双方に共通する内容である共通項Cの3項は，それぞれ文脈から想定される。

②　AとBとの関係は，〈AよりもBの方が共通項Cという条件を満たし易い〉ものとして想定される。

先行研究において，マシテが「“だから当然”の意味に近い」（森田1989：1059）と解釈されるのは，(45)にまとめたマシテの意味から導き出されるものである。すなわち，「共通項Cという条件を“満たし難い”Aにおいて，Cを満たすのだから，Cを“満たし易い”Bは“当然”Cを満たす」と解釈されると考えられる。

4．おわりに

本稿では，副詞マシテの意味について，その用法を整理し，特徴を分析することで明らかにした。マシテは「とりたて副詞」に分類されることがある[5]が，最後に，「とりたて助詞」との関係について，以下の点を指摘しておく。

マシテは，先行研究において「顕著に異なった二つの場合を比較して，〈他方の場合サエそうだから，以下の場合ナドハいうまでもなく〉という関係で，とりたてる」（工藤1977：978）と指摘されるように，サエやナドと共起する用例がみられる。このうち，サエについては，菊地2003において，次のような指摘がなされている。

(46)　（あの秀才の）A君（デ）サエ落ちた。

（菊地2003(32)）

(46)は「秀才ノA君ガ試験ニ落チル」という「極限的な事柄の成立」を「（デ）サエ」で述べたてる例であるが，そこから「その尺度上の非極限については当然成り立つ」という「類推」が「派生的」に働くことになるという。(46)の例であれば，例えば「“秀才ノA君ガ試験ニ落チル”ことがあったのだから，当然“普通ノ成績ノ人モ試験ニ落ちる”ことが類推される」といった解釈がなされる，ということである。

この「（デ）サエ」の「極限的な事柄の成立」と「非極限的な事柄の成立」との関係は，本稿で指摘したマシテのAとBとの関係と類似する。しかし，「（デ）サエ」においては，非極限的な事柄が成立するという「類推」が「派生的に働く」（菊地2003：97）のに対し，マシテにおけるAとBの関係は，派生的な類推関係とは捉えられない。「（デ）サエ」文は，

(47)　X：試験はどうだった？
　　Y：あの秀才のタロウ君（デ）サエ落ちたよ。

のように，「ソノ試験ハソレホド難シイ」ことを述べる「極限提示」（菊地2003：97）の用法が可能であるが，同様の趣旨をマシテを用いて述べようとすると，

(48)　X：試験はどうだった？
　　??Y：マシテ，普通の成績のジロウ君は当然落ちたよ。

のように，不自然に感じられ，

(49)　X：試験はどうだった？
　　Y：あの秀才のヨシオ君が落ちたんだよ。マシテ，普通の成績のジロウ君はね…。

のように，Aとの関係においてBが述べられると考えられる[6]。このことは，とりたて助詞ととりたて副詞との役割の違いを考える上で興味深い現象である思われるが，その詳細な分析については今後の課題としたい。その他，類似する表現であるイワンヤ等との比較や，他のとりたて副詞との比較などについても，今後の課題となる。

【注】

1）マシテは古典語にも存在するが，本稿では現代語の用法について考察を行う。

2）例文はマシテを片仮名にかえ，必要に応じて下線等を削除，または付加している。

3）これらの連語的用法との関係については，今後の課題となる。

4）(23)(24)のように，A・B・Cの内容が文中に明示されておらず，文脈から想定されるような場合は，想定される内容が一義的とは限らない。例えば，(23)のCについて「アノ方の性格」等の内容を想定することも可能である。ここで重要なのは，想定される内容にある程度の幅があるにせよ，文脈からA・B・Cの内容が想定されるという点である。

5）工藤1977では，「文中の特定の対象を，同じ範列に属する他の語とどのような関係にあるかを示しつつ，範列語群の中からとりたてる機能をもつ副詞」を「限定副詞」とし，その一つとして「類推」を立ててイワンヤ・マシテをそれに分類する。この定義は，とりたて助詞の定義として共通する要素である「とりたてられる要素と他の要素との範列的な関係」と共通するも

のである。工藤1977の「限定副詞」は，工藤1982で「とりたて副詞」に改称され，工藤2000でも「とりたて副詞」の名称が用いられている。

6）マシテは一般に副詞とされることが多いが，市川1976では，接続詞との共通性も指摘されている。本稿は，マシテの品詞の確定を目的とするものではないが，「マシテの前項と後項との関係」という観点からは，この指摘は注目されるものである。この点については今後の課題としたい。

【用例出典】

用例は全て『CD-ROM版新潮文庫の百冊』（新潮社）から採集したものである。以下に作品名及び著者名を挙げる。

あすなろ＝井上靖『あすなろ物語』，越前＝水上勉『越前竹人形』，国盗り＝司馬遼太郎『国盗り物語』，好色＝芥川龍之介『好色』，こころ＝夏目漱石『こころ』，新源氏＝田辺聖子『新源氏物語』，痴人＝谷崎潤一郎『痴人の愛』，楡家＝北杜夫『楡家の人びと』，鼻＝芥川龍之介『鼻』，華岡＝有吉佐和子『華岡青洲の妻』

【引用文献】

市川孝1976「副用語」『岩波講座　日本語６文法Ⅰ』岩波書店，pp. 219-258

菊地康人2003「現代語の極限のとりたて」『日本語のとりたて―現代語と歴史的変化・地理的変異』くろしお出版，pp. 85-105

工藤浩1977「限定副詞の機能」『松村明教授還暦記念国語学と国語史』明治書院，pp. 969-986

工藤浩1982「叙法副詞の意味と機能―その記述方法をもとめて―」『国立国語研究所報告71　研究報告集３』国立国語研究所，pp. 45-92

工藤浩2000「副詞と文の陳述的なタイプ」『日本語の文法３モダリティ』岩波書店，pp, 163-234

森田良行1989『基礎日本語辞典』角川書店

森田良行2002『日本語文法の発想』ひつじ書房